

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470200900		
法人名	株式会社 ケア・リンク		
事業所名	はびね別府(グループホーム2階)		
所在地	大分県別府市天満町 2-17		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成23年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自分で出来る事はしていただき出来ない部分のみ声掛けや見守り・介助を行い、皆で助け合いながら協調して楽しく生活できる環境を心掛けています。重度の認知症の方は非言語的コミュニケーションも大切に不安にならないよう笑顔での優しい声掛けやスキンシップを行い、ご利用者様中心の介護を行っている。特にご自分から訴える事ができない方が多いため日常をよく観察し、事故を未然に防ぎ、異常の早期発見と対応に努めている。日々の生活では個々に合ったレクリエーションやリハビリを実施しており、特に2年前より取り組んでいる『口腔管理』は、集団訓練や個別訓練で食べる機能の復活や認知症の改善や進行防止の効果が現れている。年間行事もご利用者様の希望を伺いながら楽しんで頂けるように計画実施しており、本人様及びご家族様の要望が叶えられるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を「ピース」「パートナー」など5項目掲げ、実践について会社開催の全国大会で発表し優秀賞をいただいている。また、「身体拘束ゼロ運動」などに関する各委員会があり、それぞれの委員会が主となって利用者本位のサービスを検討し提供している。
・ 運営に関する意見を把握するために定期的に「ご家族様アンケート用紙」を配布し、集計・分析・検討をし、運営に反映している。アンケートの結果は家族に開示している。

・ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内にはびね別府の理念を掲示し、はびねが目指す介護を職員全員で共有して、申し送りや全体会議で確認しあうが特に現場でのOJTを大切にしている。	理念は「5つのP」として、パイオニアやプライバシーなど、5項目掲げている。理念の取り組みは、毎年開かれる、会社の全国大会で発表し、優秀賞をもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天満町の行事に参加しており、地区の敬老会の会場として施設を開放したり介護相談を受けたり、はびねの避難訓練への参加やお餅搗きの用具をご近所の方にお借りしたりと互いに助け合っている。	地域の行事や敬老会・介護相談などで、施設を地域に開放している。また、餅つきの際は、住民に「杵」などを借りたり、避難訓練などへの参加も呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方の介護相談を受けたり、バリアフリーで環境も整っている1階フロアを地区の敬老会会場として提供している。また、地域の小中学校の実習や慰問を受け入れ、認知症高齢者の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の地域推進会議で運営状況や取り組み状況を報告し、地域の方の協力が必要な場合は自治会長自ら対応くださり、大変助かっている。	会議には、自治会長や地区の民生委員・地域包括支援センター職員・家族などが参加している。特に地区の自治会長は協力的である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に出向いたり電話で、施設運営について、相談に乗っていただいている。また、別府市グループホーム連絡協議会より依頼して市役所の介護福祉課担当者に講演講師の協力も頂いている。	市役所の担当者に、利用者の重度化について相談をしたり、福祉課担当者に「認知症フォーラム」の講演依頼などしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会を中心に拘束しないケアを実践している。また、毎月1回委員会を開催し、全体会議で状況報告も行い、施設内研修でも勉強会を行っている。	『身体拘束ゼロ運動』を委員会が主体となって取り組んでいる。事業所は毎月、委員会の代表者が全体会議の中で、状況報告を行う他、勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に施設内外の研修に参加して虐待防止について学習し、気付かぬ内に虐待していないよう、皆で意識合っている。		

事業者名: グループホームはびね別府2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について閲覧できる資料を設置しており、必要と思われる身元引受人様には説明もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は読み合わせを行い、都度質問等を伺いながら、十分理解していただき契約を交わせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話で情報交換を密に行い、年2回の家族会で意見も頂戴している。更に年1回「ご家族様アンケート」を行い意見をいただき、タイムリーに対応すると共にアンケートの集計結果を全家族に報告している。	運営に対する意見は、年2回の家族会や電話・面会時に聞いている。また「ご家族様アンケート表」を年1回配布して集計・分析をし家族に開示をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りに参加し、直接スタッフの意見を聞く事ができ、速やかに対応している。ケースカンファレンスやリーダー会議、全体会議での意見交換は勿論、いつでも意見を言える体制になっている。	管理者は毎日、申し送りに参加し職員の意見や提案などを直接聞いている。また、カンファレンスやリーダー会議・全体会議に出席し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの得意分野を把握して業務の中で活かしてもらい、達成感や遣り甲斐を感じてもらおう。また、6ヶ月に1回の人事評価で評価し、給料に反映させている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回人事評価で介護者としての実力を確認し不足している部分の指導を強化したり、各種研修に参加してもらっている。年間を通して、外部研修や施設内研修で研鑽を積みレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市は8施設でグループホーム連絡協議会を設けており、研修会や交流会を行い情報交換を行っている。またリーダー研修では互いの施設で交換研修を行ったりもした。		

事業者名: グループホームはびね別府2階

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に施設長と計画作成担当者がご自宅に訪問調査に伺い、家庭環境や生活状況(得意な事や趣味)を確認させていただくと共に本人様からどのような生活を望んでおられるのかを伺っている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学に来られた際に困っている事や不安に思っている事等を十分に時間をとって伺い、アドバイスも行い少しでも気持ちが楽になるように援助している。また、その後の相談もいつでもお受けしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族様および担当ケアマネと確認作業を進め、在宅介護サービス利用や他施設利用がベストであると判断した場合は施設紹介も行っている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として接しており、色々な事を教えていただいている。家事などは可能な限り一緒に行い、互いに「ありがとう」の気持ちを大切に生活している。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご入居者様の様子を発信し状況を共有し、面会時間や外出等も可能な限り制限せず、旅行や行事への家族参加も募り、入居者様の生活を支えるためにご家族様と職員が協働できている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご近所さんの面会は、ご家族の許可があれば制限せず、またそれぞれの地域の敬老会に参加する事で親交を深めたりしている。	利用者や家族の意向で、それぞれの地域での敬老会に出席し、親交を深めている。また、故郷訪問として、姫島や臼杵などに一泊旅行を行なっている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃の人間関係を良く観察し把握して、良い関わりが持てるよう援助している。		

事業者名: グループホームはびね別府2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居後も次の施設や病院を訪問して様子を伺い、ご家族様よりメールやお電話で相談を受けた場合は出向いて助言も行い、病院から次の施設への紹介も行った。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どの様に生活したいかを伺い、可能な事はプランに織り込む。ご家族の協力が必要な場合はご家族様にも相談して協力していただく。満足度も確認し、評価・改善等も行っている。	重度化した利用者に対しては、表情やしぐさなどから思いや意向を把握している。また、家族の意見をもとにアセスメント用紙に記入し、会議の中で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査や入居後も本人様やご家族様から情報をいただき把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の現状を介護者がしっかり把握し、些細な変化も見逃さないように日々の観察を注意深く行っている。勤務は交代で行われているため、申し送りノートを活用しながら詳細の申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様とご家族様の希望を伺いカンファレンスを行って希望に沿ったケアプランを作成している。その後も定期的にモニタリングを行い、ケアプランに反映している。	ケアカンファレンスを経て、介護計画書を作成し、実践している。計画書は定期的にモニタリングを行い、評価・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った介護内容やその日の出来事を日課経過記録表に記入し、パソコン内からも閲覧できるようにして情報の共有をしている。状態の変化により計画の変更が生じた場合はタイムリーに改善している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や外出援助、ご家族に変わっての手続き業務等の代行も行っています。また、急な外出や外泊希望にも柔軟に対応しております。		

事業者名: グループホームはびね別府2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの踊りの先生にお出でいただき盆踊りの練習をしたり、地域の小学生の慰問を受けたり、学校行事の看板作りのお手伝いをしたりして交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外にも希望される病院や専門の診療科への受診も行っており、ご家族が付き添えない時は職員が同行介助している。また、歯科・皮膚科・泌尿器科は往診もいただいている。	事業所の隣りに協力病院がある。医師・看護師と連携が取れており、24時間対応が可能である。また、管理者が看護師であり、救急時の対応など、職場内研修を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師と看護師資格を持っている管理者と介護職員が連携して日常の健康管理を行っているが、急な状態変化にも常に協働して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護添書にて情報提供を行い、入院中は頻繁に面会に伺い環境の変化に戸惑わない様にしている。医師よりの説明はご家族の希望もあり常に同席させていただいており、早期回復・早期退院に向けご家族様やMSWと協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療度の重い方・設備的に当施設での生活が難しくなった方以外は極力最後までお世話させていただき方針で看取りについての指針を提示し、ご家族の希望を文書で頂いている。	重度化や看取りについて、早い段階で説明を行い、看取りの指針を提示している。また、看護師を配属しており、終末期ケアの体制作りが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し社内研修を行い、消防署主催の普通救命指導も受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1～2ヶ月に1回の避難訓練及び緊急連絡訓練と年1回の消防署立会い避難訓練も実施し、職員が冷静に対処できるように訓練している。また、地域の方にも訓練に参加していただいている。	1～2ヶ月に一度、避難訓練の実施や緊急時の対応について研修をしている。年に1回は、消防署や地域住民の協力を得て避難訓練を行なっている。	

事業者名: グループホームはびね別府2階

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を守るケアを常に心掛けており、声かけ一つにしても状況をふまえて行動し、周りとの関係も配慮しながらケアを行っている。	理念の中にプライバシーへの配慮を掲げ、誇りやプライド・声かけなど、尊厳を大切にしたケアについて日々振り、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言語で表出できる方には都度お伺いしながらケアさせていただいており、表出できない方には日頃よりご利用者様の表情や様子で何を求めておられるかを読み取りケアする事で信頼関係を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調によっては食事の時間を下げたり、入浴日を変更したりしている。また、個々の嗜好品の提供も行っており、希望される飲み物や食べ物を召し上がっていただいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は外部の美容院にお連れしたり、行事の際はお化粧したり綺麗な洋服を着たりして日常とは違う姿を楽しんでいただいている。日々の生活では汚れない清潔な洋服を着用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食1品と週2回のおやつはご利用者様とスタッフが一緒に作っている。盛り付けや準備、食後の後片付けもご利用者様の機能に合わせて出来る事を行っていただいている。	栄養士の指導を受け、献立や食事づくりに活かしている。食事の準備や後片付けなど、利用者のできることを一緒に行い、家庭的である。おやつ作りは利用者と栄養士が、一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談しながら栄養管理を行い、水分は1日の必要量を摂取できるよう工夫しながら行い飲水量や食事量を記録して、健康管理に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔リハビリを実施し口腔機能が衰えないよう鍛え、口腔内の環境を整えている。毎食後に歯磨きを行い、不十分な部分は介助を行っている。就寝前は義歯を外し、洗浄殺菌剤に浸して清潔を保つようにしている。		

事業者名: グループホームはびね別府2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方は排泄間隔を把握し、間隔が空き過ぎる時は声掛けを行い失禁を未然に防ぐ様にしている。夜間熟睡して失禁する場合はパッドを利用し、排泄誘導も行う。	個々の排泄パターンに沿って、トイレ誘導を行っている。また、排便に対して運動により自然排便につなげている。夜間も排泄誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類の摂取を促し、水分摂取量にも留意している。排便の有無の観察を行い、乳製品の飲用で腸内環境を整えたり、どうしても排便がない場合は解下剤を適量使用し、排泄困難に陥らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが気分や体調に合わせて日程を変更している。入浴拒否があっても誘導方法を変えたり、職員を替えたり、時間を変えたり工夫をして同意を待つ。決して、強要はしない。	入浴日は、ユニットによって決めているが希望があればいつでも入れるようにしている。入浴嫌いな利用者には、担当者や時間を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを乱さないよう寝衣に着替え、個々の希望する寝床をセッティングし安眠できるようにしている。眠れない時は付き添ったり、スタッフルームでおしゃべりしたりし、眠気を催したら寝床に案内している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の内容は個人ファイルで管理し把握しており、副作用については看護師より情報提供を行っている。内服による状態の変化については記録を残し、主治医に報告し指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行ったり、作品作りや脳トレ・ゲーム、DVD鑑賞や歌レク、機能訓練などを毎日行い、年間を通しては海山への外出レクや外食、一泊旅行などの行事を織り込み、介護予防と楽しい生活を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や買い物に出掛けており、花見や海遊び、外食や一泊旅行など可能な限りの外出を心掛けている。一泊旅行はご希望があればご家族様も同行され、楽しい思い出作りにもなっている。	天気の良い日は公園や買い物・散歩に出かけている。また、季節に合わせ、海や花見・一泊旅行などを、家族と一緒にしている。	

事業者名: グループホームはびね別府2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理がある程度出来る方にはお財布を持っていたりしている。買い物にはスタッフが同行して見守りを行い、出来ない部分の声掛けを援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご親戚に電話を掛けたり、手紙を投函できるように援助を行っている。また、年末にはスタッフ付き添いの下で年賀状を書いたりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただける様な飾り付けを行い、殺風景にならない様にしている。キッチンにはリビングルームに接しており食事準備の音や匂いを感じる事ができる。共有スペースの居心地が良いのか皆さんリビングに集まり過ぎる事が多い。	季節感のある置物や、お習字や俳句・小物など、利用者の作品を飾っている。台所から漂う匂いや音・笑い声などで和やかな雰囲気であり、利用者の表情に穏やかさがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の席で寛がれたり、ソファに数人で集い談話されたり、狭いスペースではあるが自由に利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室であり、本人様やご家族様と相談し使い慣れた家具や馴染みの物を置き、それぞれが皆個性のあるお部屋になっており落ち着いて過ごせる環境になっている。	使い慣れた家具や仏壇、思い出の写真などを飾っている。利用者一人ひとりの思いを尊重した居室作りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりも設置されており安全に動けるよう整備されている。居室内は整理整頓し、転倒事故等が起きないように留意しており、個人の身体機能・認知機能に合った環境を工夫し整備している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470200900		
法人名	株式会社 ケア・リンク		
事業所名	はびね別府（グループホーム3階）		
所在地	大分県別府市天満町 2-17		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成23年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自分で出来る事はしていただき出来ない部分のみ声掛けや見守り・介助を行い、皆で助け合いながら協調して楽しく生活できる環境を心掛けています。重度の認知症の方は非言語的コミュニケーションも大切に不安にならないよう笑顔での優しい声掛けやスキンシップを行い、ご利用者様中心の介護を行っている。特にご自分から訴える事ができない方が多いため日常をよく観察し、事故を未然に防ぎ、異常の早期発見と対応に努めている。日々の生活では個々に合ったレクリエーションやリハビリを実施しており、特に2年前より取り組んでいる『口腔管理』は、集団訓練や個別訓練で食べる機能の復活や認知症の改善や進行防止の効果が現れている。年間行事もご利用者様の希望を伺いながら楽しんで頂けるように計画実施しており、本人様及びご家族様の要望が叶えられるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(1ユニット目に記載)

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内にはびね別府の理念を掲示し、はびねが目指す介護を職員全員で共有して、申し送りや全体会議で確認しあうが特に現場でのOJTを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天満町の行事に参加しており、地区の敬老会の会場として施設を開放したり介護相談を受けたり、はびねの避難訓練への参加やお餅搗きの用具をご近所の方にお借りしたりと互いに助け合っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方の介護相談を受けたり、バリアフリーで環境も整っている1階フロアを地区の敬老会会場として提供している。また、地域の小中学校の実習や慰問を受け入れ、認知症高齢者の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の地域推進会議で運営状況や取り組み状況を報告し、地域の方の協力が必要な場合は自治会長自ら対応くださり、大変助かっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に出向いたり電話で、施設運営について、相談に乗っていただいている。また、別府市グループホーム連絡協議会より依頼して市役所の介護福祉課担当者に講演講師の協力も頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会を中心に拘束しないケアを実践している。また、毎月1回委員会を開催し、全体会議で状況報告も行い、施設内研修でも勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に施設内外の研修に参加して虐待防止について学習し、気付かぬ内に虐待していないよう、皆で意識し合っている。		

事業者名: グループホームはぴね別府3階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について閲覧できる資料を設置しており、必要と思われる身元引受人様には説明もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は読み合わせを行い、都度質問等を伺いながら、十分理解していただき契約を交わせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話で情報交換を密に行い、年2回の家族会で意見も頂戴している。更に年1回『ご家族様アンケート』を行い意見をいただき、タイムリーに対応すると共にアンケートの集計結果を全家族に報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りに参加し、直接スタッフの意見を聞く事ができ、速やかに対応している。ケースカンファレンスやリーダー会議、全体会議での意見交換は勿論、いつでも意見を言える体制になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの得意分野を把握して業務の中で活かしてもらい、達成感や遣り甲斐を感じてもらう。また、6ヶ月に1回の人事評価で評価し、給料に反映させている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回人事評価で介護者としての実力を確認し不足している部分の指導を強化したり、各種研修に参加してもらっている。年間を通して、外部研修や施設内研修で研鑽を積みレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市は8施設でグループホーム連絡協議会を設けており、研修会や交流会を行い情報交換を行っている。またリ－ダー研修では互いの施設で交換研修を行ったりもした。		

事業者名: グループホームはぴね別府3階

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に施設長と計画作成担当者がご自宅に訪問調査に伺い、家庭環境や生活状況(得意な事や趣味)を確認させていただくと共に本人様からどのような生活を望んでおられるのかを伺っている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学に来られた際に困っている事や不安に思っている事等を十分に時間をとって伺い、アドバイスも行い少しでも気持ちが楽になるように援助している。また、その後の相談もいつでもお受けしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族様および担当ケアマネと確認作業を進め、在宅介護サービス利用や他施設利用がベストであると判断した場合は施設紹介も行っている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として接しており、色々な事を教えていただいている。家事などは可能な限り一緒にいき、互いに「ありがとう」の気持ちを大切に生活している。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご入居者様の様子を発信し状況を共有し、面会時間や外出等も可能な限り制限せず、旅行や行事への家族参加も募り、入居者様の生活を支えるためにご家族様と職員が協働できている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご近所さんの面会は、ご家族の許可があれば制限せず、またそれぞれの地域の敬老会に参加する事で親交を深めたりしている。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃の人間関係を良く観察し把握して、良い関わりが持てるよう援助している。		

事業者名: グループホームはぴね別府3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居後も次の施設や病院を訪問して様子を伺い、ご家族様よりメールやお電話で相談を受けた場合は出向いて助言も行い、病院から次の施設への紹介も行った。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度の認知症の方は言語による表出が困難なため、日頃よりご利用者様の表情や様子で何を求めているかを読み取りケアを行っている。満足度は表情や行動で確認し、評価・改善等も行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査や入居後も本人様やご家族様から情報をいただき把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の現状を介護者がしっかり把握し、些細な変化も見逃さないように日々の観察を注意深く行っている。勤務は交代で行われているため、申し送りノートを活用しながら詳細の申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様とご家族様の希望を伺いカンファレンスを行って希望に沿ったケアプランを作成している。その後も定期的にモニタリングを行い、ケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った介護内容やその日の出来事を日課経過記録表に記入し、パソコン内からも閲覧できるようにして情報の共有をしている。状態の変化により計画の変更が生じた場合はタイムリーに改善している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や外出援助、ご家族に変わっての手続き業務等の代行も行っています。また、急な外出や外泊希望にも柔軟に対応しております。		

事業者名: グループホームはぴね別府3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの踊りの先生にお出でいただき盆踊りの練習をしたり、地域の小学生の慰問を受けたり、学校行事の看板作りのお手伝いをしたりして交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外にも希望される病院や専門の診療科への受診も行っており、ご家族が付き添えない時は職員が同行介助している。また、歯科・皮膚科・泌尿器科は往診もいただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師と看護師資格を持っている管理者と介護職員が連携して日常の健康管理を行っているが、急な状態変化にも常に協働して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護添書にて情報提供を行い、入院中は頻繁に面会に伺い環境の変化に戸惑わない様にしている。医師よりの説明はご家族の希望もあり常に同席させていただいており、早期回復・早期退院に向けご家族様やMSWと協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療度の重い方・設備的に当施設での生活が難しくなった方以外は極力最後までお世話させていただき方針で看取りについての指針を提示し、ご家族の希望を文書で頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し社内研修を行い、消防署主催の普通救命指導も受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1～2ヶ月に1回の避難訓練及び緊急連絡訓練と年1回の消防署立会い避難訓練も実施し、職員が冷静に対処できるように訓練している。また、地域の方にも訓練に参加していただいている。		

事業者名: グループホームはびね別府3階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を守るケアを常に心掛けており、声かけ一つにしても状況をふまえて行動し、周りとの関係も配慮しながらケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアに拒否があった場合は強要せず、誘導方法を変えたり時間を置いたり工夫をして同意を得るまで待つ。日頃よりご利用者様の表情や様子で何を求めているかを読み取りケアする事で信頼関係を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調によっては食事の時間を下げたり、入浴日を変更したりしている。また、個々の嗜好品の提供も行っており、希望される飲み物や食べ物を召し上がっていただいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は外部の美容院にお連れしたり、行事の際は化粧したり綺麗な洋服を着たりして日常とは違う姿を楽しんでいただいている。日々の生活では汚れない清潔な洋服を着用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1回おやつ作りを栄養士と一緒にしている。日常ではココア作りや茶碗拭きなどの後片付けを機能に合わせてできる事を行っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談しながら栄養管理を行い、水分は1日の必要量を摂取できるよう工夫しながら行い飲水量や食事量を記録して、健康管理に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔リハビリを実施し口腔機能が衰えないよう鍛え、口腔内の環境を整えている。毎食後に歯磨きを行い、不十分な部分は介助を行っている。就寝前は義歯を外し、洗浄殺菌剤に浸して清潔を保つようにしている。		

事業者名: グループホームはぴね別府3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄間隔を把握し、できる限りトイレでの排泄を心掛けており、尿意を訴えない方も時間毎に誘導して極力失禁しない様に努力している。夜間も排泄誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類の摂取を促し、水分摂取量にも留意している。乳製品の飲用や散歩で排便が見られる方も居られるため、その方に合った排泄方法を理解し実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが気分や体調に合わせて日程を変更している。入浴拒否があっても誘導方法を変えたり、職員を替えたり、時間を変えたり工夫をして同意を待つ。決して、強要はしない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを乱さないよう寝衣に着替え、個々の希望する寝床をセッティングし安眠できるようにしている。眠れない時は付き添ったり、スタッフルームでおしゃべりしたりし、眠気を催したら寝床に案内している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の内容は個人ファイルで管理し把握しており、副作用については看護師より情報提供を行っている。内服による状態の変化については記録を残し、主治医に報告し指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描く事が好きな方には塗り絵を、家事がお好きな方には出来る家事を、散歩がお好きな方には散歩を、楽器演奏が得意な方には演奏をと極力その方に合った援助を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は数回に分かれて(少人数で)散歩に出掛けており、花見や海遊び、一泊旅行など可能な限りの外出を心掛けている。一泊旅行はご希望があればご家族様も同行され、楽しい思い出作りにもなっている。		

事業者名: グループホームはぴね別府3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2階のご利用者様は残念ながらお金の管理が出来ないレベルの方の為、お金を所持してられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様も了解の上、電話を取り次ぐ事があるが重度の為、会話が出来ない方が殆どである。1名様のみスタッフ付き添いの下で年賀状を何とか書けるレベルである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただける様な飾り付けを行い、殺風景にならない様にしている。キッチンリビングルームに接しており食事準備の音や匂いを感じる事ができる。共有スペースの居心地が良いのか皆さんリビングに集まり過される事が多い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の席で寛がれたり、ソファに数人で集い談話されたり、狭いスペースではあるが自由に利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室であり、本人様やご家族様と相談し使い慣れた家具や馴染みの物を置き、それぞれが皆個性のあるお部屋になっており落ち着いて過ごせる環境になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりも設置されており安全に動けるよう整備されている。居室内は整理整頓し、転倒事故等が起きないように留意しており、個人の身体機能・認知機能に合った環境を工夫し整備している。		